VOL.19

こんにちは、(公社)ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサーの古田菜穂子です。暑い夏もやっと峠を越え 9 月も終わりに近づいています。みなさま、お元気でしょうか？

前回のコラムでは、EXPO 2025 大阪関西万博の開催についてを書きましたが、すでにその終わりまで１ヶ月を切りました。万博は、予想を良い意味で裏切って、来場者数や評判も鰻登りで、まあ、よかったと言えますよね。フィールドパビリオンに関しても、万博を機に兵庫の新しい魅力の発見につながったのではないかと思っています。

それぞれのコンテンツの差はありますが、おおむね地域を見直し、魅力の再発見と再編集という意味では、効果もあったと思います。何より（きっかけはどうあれ）行政から言われてやるだけではなく、地域のみなさんが自らやる気になり、頑張り、つながって広げていったというこの活動は、今後の「地域振興としての観光産業化」にとって良い流れをつくることができたのではと思います。

それらは数年前の DC キャンペーンでの「テロワール旅」にも言えると思います。こうしてコツコツと積み上げてきたものにとって、大切なのは継続の中での進化です。兵庫の観光は、ここ数年の中で確実に進化しつつあると思います。次はどう経済循環につなげ持続可能な地域資源としていくかです。

ちなみに兵庫県は、私の住んでいる（そして長年観光行政に携わってきた）岐阜県に比べると、県経済を担う大企業などの数は明らかに多いです。その分、税収なども多いはずだと思います。豊かな県のはずです。なのに観光行政にかける予算が実は、岐阜県よりうんと少ないということに先日気づき、かなり驚いた次第です。

何を今頃、という感じですが、岐阜県では２００９年に私が観光局長になって以来、じわじわと観光予算を増やしてきました。これは県内での産業としての観光の重要度も増していくことに比例します。対して兵庫県では、ある意味、予算の少ない中で、今まで、相当に頑張ってきたのだなと思います。でも、時代は大きく変わり、今やインバウンドを含め、観光が、地域振興や地方創生においての重要な役目を果たす、言ってみれば産業インフラにもなってきたのです。

これは世界も同じです。予算だけをアップすればよいというものではないですが、観光という産業が、県や県民にとってのベネフィットも多い時代になってきたということで、その現実に比例し、観光というあらたな産業構造の在処は、本来なら、もっと県庁内はもちろん、人々の間で重要視されていってもよいのではと思います。

何より、観光産業は、平和産業といわれています。平和であること、人が他者に対して寛容であること、共感性のなか、心も身体も豊かにすると同時に、経済をまわすこと。そんな、観光のあらたな道のりを、大阪関西万博のスローガンでもあった「持続可能な未来社会のデザイン」に重ねて行けたら良いと思いませんか？みなさんは、いかがでしょうか。では、また。次回に。